



二宮町が考える小中一貫教育

子どもを取り巻く社会環境などの様々な変化は急激なものがあります。このような状況を背景に、子どもたちにより良い環境においてより質の高い学校教育を提供するため、義務教育のあり方について、根本から考えていかなければならない時期にきています。特色ある学校教育を進めることは将来の二宮町を支える人づくりにもつながるものと考えます。

そこで、これからの小・中学校の教育のあり方を考える基本として、「小中一貫教育（校）」を導入することとしました。義務教育9年間を見据え、子どもの発達段階に応じたきめ細かい指導と、小学校と中学校が連携・協力して学習面や生活面での切れ目のない支援にあたり、二宮町は主に次のことを目指し取組を進めます。

- ① 主体的・対話的で深い学びを通して「生きる力」を育むための資質・能力を養います。
- ② 9年間を見通したカリキュラムの編成による学習指導の改善から、児童生徒の学力向上に取り組みます。
- ③ 小学校から中学校への接続を円滑にし、環境の変化により起こるいわゆる「中1ギャップ」などの状況を解消または小さくします。
- ④ 様々な課題を抱える児童生徒に対し、小・中学校が連携して9年間を見据えた切れ目のない指導・支援を行います。
- ⑤ 将来を見据えて二宮町を支える人づくりと共生社会を作るための素地づくりに取り組みます。

施設分離型小中一貫教育校はなぜ必要なのか

小中一貫教育校は第2号で紹介したように施設形態として「施設一体型」「施設隣接型」「施設分離型」の3つがあります。文部科学省が実施した「小中一貫教育等についての実態調査の結果」（平成27(2015)年文部科学省)によると、「施設一体型」の方が「施設分離型」より大きな成果が表れるとしています。二宮町教育委員会も「施設一体型」を遅くとも令和22(2040)年までに設置することを目指しています。

既存の施設を改修して施設一体型の小中一貫教育校が出来たとしても、文化や背景が異なる校種の教員が一緒になって9年間を通じて切れ目のない系統的な教育を行うには、十分な理解と準備が必要となります。そこで、既存の学校施設と体制を維持した施設分離型の小中一貫教育校からスタートさせ、成果と課題をあきらかにすることが必要であると考えます。

令和5年度より施設分離型小中一貫教育校を2グループ設置

2つの学校グループで小中一貫教育校を設置します。

二宮中・二宮小グループ

二宮西中・一色小・山西小グループ

どちらのグループでも共通して取り組むこと

- 9年間を見通したカリキュラム研究に基づき、小・中学校の教員が連携した学習指導の推進
- 各教科・領域で資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学びの推進
- 総合的な学習の時間を中心として郷土を愛する気持ちを育むための探究的な活動の推進
- 外国語活動・外国語を中心にグローバル化に対応する英語教育の充実に向けた学びの推進
- 小・中学校間での交流の促進（例：オンライン交流や行事の共同開催など）
- すべての小・中学校が共通性と一貫性を持って、「誰一人取り残されない学級集団・学習集団づくり」を継続的に推進

取組の詳細については次号で紹介します。

